世界遺産 奈良

紀伊山地の霊場と参詣道

詳しい情報はこちらから➡

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、奈良県と三重県、和歌山県にまたがる世界遺産で、「吉野・大峯」「熊野三山」「高野山」の三つの霊場と、それらを結ぶ「大峯奥駈道」「熊野参詣道」「高野参詣道」の参詣道が含まれます。このうち、奈良県には霊場「吉野・大峯」と、大峯奥駈道、熊野参詣道のひとつ小辺路が所在します。

紀伊山地は、豊かな自然を背景に、日本古来の自然崇拝の信仰と大陸伝来の仏教が融合して、多様な形態の信仰が育まれました。

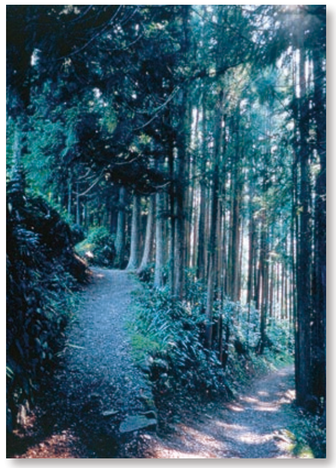
霊場「吉野・大峯」は、紀伊山地の最北端にあり、吉野山、吉野水分神社、金峯神社、金峯山寺、吉水神社、大峰山寺で構成されます。標高千数百メートルの山々が続く修験等の聖地であり、10世紀の中頃には日本第一の霊場として信仰を集めるようになりました。

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、これらの資産と、自然と人々の営みが作り出した風景が一体となった文化的景観であり、その伝統が現代まで受け継がれている点が高く評価されています。

熊野参詣道 小辺路

熊野参詣道小辺路は、真言密教の総本山「高野山」と熊野三山の一つ「熊野本宮」の二大聖地を最短距離で結ぶ参詣道です。熊野本宮から高野山へ向かう場合は「高野道」とも呼ばれています。高野山から1,000m級の峠を3つ越えて熊野本宮へと至る全長約72kmのハードなルートですが、石仏や地蔵、苔むした石畳や茶屋跡など、昔の古道の雰囲気を数多く残しています。

また、熊野から大阪へと向かう最短ルートであったことから、参詣者と共に多くの商人たちが行き来したルートでもありました。



伯母子岳

果無集落

霊場「吉野・大峯」

吉野・大峯は、役行者の開山以来、1300年の歴史を持つ修験道の聖地として信仰を集めてきました。標高千数百メートル級の急峻な山々が続く大峯連山に位置し、その北端から南へ8km程続く尾根が吉野山で、古来より日本一の桜の名所としても名高いところです。

吉野は、修験道の開祖である役行者ゆかりの地として重要視され、奈良・平安時代には金峯山寺に天皇や貴族が度々参詣し隆盛を極め、修験道の根本道場と呼ばれるようになりました。大峯は、吉野と熊野三山を結ぶ大峯山脈の総称でまた、実践行を重んじる修験道では山に入って苦行を重ねながら歩く「奥駈修行」を最も重視したことから、吉野・大峯の山岳霊場が形成されました。

吉野山

金峯山寺

吉水神社

吉野水分神社

金峯神社

大峰山寺

玉置神社

杉の巨樹群

大峯奥駈道

「修験道の開祖」役行者によってひらかれた山岳信仰の聖なる道であり、吉野と熊野を結ぶ約170kmの道です。

また急峻な山岳が連なる大峯山脈の尾根を沿うようにして続く、極めて過酷な精神修行の場です。

大峯奥駈道には、大峯七十五靡と呼ばれる神仏が宿るとされた拝所・行場が遺跡として残り、祠や仏像などは良好な状態で保存・管理されています。十津川村にはこのうち35の靡があります。